

R. D. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

大学にいる間に何か新しいことに挑戦したいと考え、せっかくの英文学科なので留学を試みようと思いました。留学を考えた時期は2回生の夏頃です。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

特に勉強はしていなかったです。普段通りに過ごしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザと予防接種にすぐ取り掛かりました。車の運転免許の更新期限が留学中の期間だったので、免許更新にも行きました。それと和食をずっと食べていました。

④ 現地到着後

空港に到着すると現地の大学の国際課の方が車で迎えに来て30分程で大学に到着しました。そこから1週間程はオリエンテーションで、前半は留学生だけのオリエンテーションでした。銀行へカードを作りに行ったり、留学中のストレスをどう対処するかなどの講習を受けたりしました。後半は現地の学生とのウェルカムパーティなどをして過ごしました。

⑤ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

Chatham は街より少し高い丘の上にあり、自然に囲まれていてとてものんびりした環境にあります。敷地内は中くらいの広さで、移動しやすいです。ジムや体育館もきれいでした。

◆ 履修科目

・ American Culture and Cinema

アメリカ映画の歴史を、実際に映画を観ながら学びました。映画が好きなので決めました。

・ Foundations of Human Communication

コミュニケーションについて心理的な面から学びます。アドバイザーに勧められて取りました。

・ Squash

運動が好きなのと、スカッシュについてあまり知らなかったのでやってみたいということでした。

・ Reading in Language and Culture

ELP の授業です。アメリカの文化や、異文化適応についての文章を読み、それについてディスカッションをしました。時間的に都合が良かったので取りました。

・ Grammar for Academic Writing A

ELP の授業です。長文を書くときにしやすいミスについて学び、いくつか長文を書いて先

生に添削してもらいます。ELP も取りなさいとアドバイザーに言われたので取りました。

• **Environmental Ethics**

主にアメリカの環境汚染や温暖化について倫理的な面から学びます。教科書を読んでその内容について意見を出し合いました。環境や生態系について学びたかったので取りました。

• **Introduction to Chinese Language and Culture**

授業中はずっと中国語でした。中国人の友達ができ、中国語で話したいと思い取りました。

• **Oriental Sword**

木刀を使って、映画でよくある戦闘シーンを演じます。2 人 1 組になって、演武を構成して最後に発表します。日本の文化がどう伝わっているのかを知りたくて取りました。

• **Introduction to Social Issues, Social Justice and Social Work**

主にアメリカの社会福祉についてです。課題に課外活動があり、ボランティアに行ったりしました。アメリカの社会問題について知りたかったので取りました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

ELP の授業は正直物足りなかったもので、春学期は勧められない限り取らなくてもいいかなと思いました。秋学期はまだ英語に慣れず、何も聞き取れなくてとても焦りました。毎回出される課題が多くて大変でした。レポートは毎日の課題の延長線のように思えたのでそんなに辛くなかったです。定期試験は記述問題が多かったので大変でした。

⑥ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

ギターが好きなのでウクレレクラブに入りました。それと校内を歩いていたら勧誘されたのでフリスビークラブにも入りました。フリスビークラブはアメフトのフリスビー版で、本当に運動が好きな人じゃないと嫌になると思いました。他にも、大学で週 1 回の空手の講習会に行き、先生に勧められて昇段試験を受け、級を取得しました。また、授業の課題でホームレスの方にご飯を提供するボランティアをしました。

⑦ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

寮はきれいで住みやすかったです。私の寮は男子と一緒にだったので、夜まで騒いでいる日もありましたが、そこまで気になりませんでした。ただ、部屋の明かりはとても暗いです。寮に限らず図書館も暗かったです。大学内にたくさん給水器があったので、飲み物を買わなくて済んだのは良かったです。食事はバイキング形式で、野菜もたくさんあり、美味しかったです。私は満足でしたが、多くの留学生は口に合わなかったみたいで、日本食を日本から送ってもらっていたようです。

⑧ **長期休暇の過ごし方**

長期休暇はできるだけたくさん旅行に行こうと思い、カリフォルニア、ニューヨーク、ワシントン、ラスベガス、カナダ等に行きました。

⑨ **留学期間中の就職活動の取り組み**

マイナビやリクナビにいくつか企業を登録して、プレエントリーをしました。何社かエントリーシートも送りました。留学中に頼れるのはマイナビとリクナビなので、これらのサイトで業界や企業を調べたりしていました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは、今まで経験したことのないことをたくさん経験できたことです。毎日新しい発見があり、そこから知識や好奇心が広がります。知らないことを新たに知るとは本当に楽しくてワクワクしていました。最も思い出に残っていることは、アメリカで会った友達と過ごした時間です。短い期間ですが、共に苦労を分かち合うことで絆はとも深まりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

授業の課題です。日本ではあり得ないような課題の量なので毎日勉強尽くしでした。最初は授業の内容も全くわからなかったので、教科書を読んだり、調べたりして、ついていくのは大変でした。英語に慣れると授業もわかるようになるのですが、毎日英語尽くしで英語が嫌になった時期があり、この時は苦労しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本人は集団で生活するときは常に周囲を気にしたり、協調性を重視する一方、アメリカは個人が完全に独立していて、察してもらおうという考えは基本的に無い、言わないと伝わらないということを実感しました。あと日本とアメリカの授業はこんなにも違うのかと驚きました。日本もアメリカ式の講義を取り入れたら、学生ももっと授業に真剣になるのにと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Chatham の敷地内は自然がたくさんあり、バスに乗るとすぐにダウンタウンやスーパー、レストランに行けるので、とても住みやすかったです。教授や学生は留学生に優しい人が多いので、のびのび勉強できました。悪かった点は特にはないです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。日本のお土産は帰国する前にお世話になった人達に渡すととても喜ばれました。就活用に持って行った顔写真とそのデータは役に立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はつきました。TOEIC を現地で受験したのですが、特にリスニング力が上がっていました。留学を終えて、何についても自信を持てるようになりました。英語を話すのにも、

新しいことに飛び込んでいくのも、物怖じせずに積極的にできるようになりました。そのため様々なことに興味を持ち、知りたい、やってみたいと思うことが増えました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

異なる言語、文化の中で長期間過ごすことは大変ですが、自分と向き合えらるとてもいい経験になります。私にとって、今までで一番中身が濃く、忘れられない経験になりました。英語を話そうとしないと、コミュニケーションがとれないと思われて人が寄ってきません。発音が下手でも、文法がめちゃくちゃでも、取りあえず自分から色んなことに挑戦し、英語を話そうとする姿勢が大切です。自信を持って、留学する前の気持ち、初心を忘れずに頑張ってください。それと、授業登録をする前に何系の授業を取りたいか決めておいたほうがいいです。決めておかないと、アドバイザーの勧める授業をとることになるので、それが自分の興味のない科目だとやる気が出なくてつらいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

自分ができることを最大限に生かせる、社会に役立つ仕事をしたい。

V. 写真



春休みに行ったナイアガラの滝です。滝付近が少し凍っていて綺麗だったので、少し寒い時期がお勧めです。



最後の日本語の授業のアシスタントをした後にみんなで撮った写真です。

N. T. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生のころから英語を勉強することが大好きで、高校 2 年生の時に 1 週間イギリスに行ったことで、大学に入学したら留学して、英語で自分の興味のある科目について勉強したいという思いがさらに強くなりました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

出願に TOEFL-iBT が必要だったので、それに向けて勉強しました。アメリカで、2 回生の秋から語学学校科目だけでなく正規授業も受けたかったので、いろいろな人の話を聞き、秋学期からアメリカの大学で現地の学生と授業を受けるには TOEFL-iBT である程度の点数があったほうが良いと知り、TOEFL-iBT に集中して勉強しました。1 回生の夏には TOEFL CAMP に参加し、秋には同女の TOEFL の資格講座に参加して、目標のスコアを取ることに集中していました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザの申請手続きは、複雑で大変でした。実際、ビザの面接の前日に書類の間違いに気づいたり、間違えた費用を払ったりしてしまって、当時は業者に頼んだほうがよかったかなと思いましたが、国際交流センターの方に最後まで助けていただいたので無事にビザを取得でき、結果的にいい経験になりました。そのほかに予防接種を受けに行きました。留学に必要な予防接種が受けられるところは限られているので早めに予約をして良かったと思います。勉強に関しては、大学の勉強をしっかりとる他に、自分の興味のある科目に関係する本を読んでいました。実際、この知識が現地でペーパーを書く際に役に立ちました。

④ 現地到着後

私は、同女から一緒に行く友達と同じ飛行機に乗りました。夕方の 6 時ごろにピッツバーグ空港に着くと、チャタム大学のスタッフが車で迎えに来てくれていました。着いた翌日からオリエンテーションだったので、時差ボケも治らないまま、いきなり英語のみの生活になり大変でした。この期間に大学の方が近くのスーパーに連れて行ってくれたので、そこで生活に必要なものを購入しました。その他にも、携帯や銀行の契約にも連れて行ってくれました。

⑤ 語学研修期間

◆ 授業内容、課題、試験

秋学期は、ESL と正規授業を両方取っていました。ESL は少人数の授業で、丁寧に指導してくれるので良かったです。課題が多いので、秋学期は正規授業と両立するのは大変でした。春学期は、ESL は受講しませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

小さなキャンパスでしたが、自然がいっぱいで過ごしやすかったです。私の寮の部屋は暗くて勉強しにくかったので、朝の 7 時 30 分から夜の 12 時まで開いている図書館で勉強していました。飲食もできるので、テスト前は 1 日中図書館にこもっていました。その図書館の前にカフェがあるので、お腹が空いたり眠くなったりしたら、お菓子やコーヒーを買っていました。

◆ 履修科目

◆ 授業、レポート、定期試験

・ Introduction to Sociology

秋学期にとった正規授業では社会学を勉強しました。アドバイザーの先生にこの授業を勧められました。毎週ワークシートの提出と、リーディング課題がありました。テストは 3 回に分けてあり、ファイナルはありませんでした。教授がとても親切で、テストは他の学生とは別に受けさせてもらい、時間も倍以上設けてくれました。この授業はチューターをお願いして毎週のワークシートやテスト勉強を助けてもらいました。

・ Ballroom Dance

秋学期は週に 3 回のヨガのクラスを受けていましたが、飽きてしまったので、春学期は週に 2 回の社交ダンスを受けていました。人数が少なく、ペアになって踊るので現地の学生と話す良いきっかけになりました。1 度先生に誘われて、近くの公民館のオープンレッスンを受けに行ったりして楽しかったです。

・ British Writers II

1 番つらかった授業です。1 学期で 4 冊のイギリス文学を読みました。週に 2 回の授業だったのですが、毎回 100 ページ以上、本を読むように言われていたので、本当に大変でした。中間テスト、ファイナルのほかにペーパーの提出が 2 回ありました。レポートはゼロから考えないといけないので、TA の先生に何回も相談に乗ってもらっていました。

・ Female Narration: Race and Gender in Women's Films

メイメスターに取っていた授業です。春学期に女性学を取っていたので、この授業でさらに勉強しました。メイメスターは通常の学期とは違い、週 4 回、1 日 3 時間の授業でした。この授業では、女性の監督が作った映画やなどを観て勉強しました。毎週、授業で観た映画についてのレポートと、スタディークエスションの提出がありました。授業の最後にはプレゼンテーションをしました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

インターナショナルクラブに入っていましたが、あまり活動はありませんでした。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

留学期間中は Fickes という寮に住んでいました。最初は 3 人部屋に韓国人とアメリカ人とで住んでいましたが、アメリカ人は 2 か月後に、部屋を出ていきました。その後また、新しいアメリカ人が来ましたが出ていってしまい、最終的に 3 人部屋を韓国人の子と 2 人で使っていました。虫が多く、部屋にはたびたびカメムシが入ってきました。トイレやシャワー、洗濯機、冷蔵庫は共用でした。ダイニングホールとカフェで食事をとることができますが、すぐに飽きてしまい、食事は本当につらかったです。なので、日本から送ってもらったご飯を食べたり、外食することも多かったのです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

サンクスギビングはニューヨークに、冬休みはカリフォルニアのディズニーランドとユニバーサルスタジオ、スヌーピーで有名なサンタローザ、グランドキャニオンの夕日を見るためにラスベガスに行きました。すごくハードな旅行でしたが、勉強から離れて楽しい時間でした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしていません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学で出会えた友達との楽しかった日々が最も思い出に残っています。一緒にご飯を食べたり、自炊したり、買い物に行ったりした何気ない瞬間がとても楽しかったです。韓国人のルームメートとの何気ない会話や日本語と韓国語を教えあったことも本当に楽しかったです。日本語の授業を取っている友達に日本語を教えたこともいい経験になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

勉強がとにかく大変でした。もちろんすべて英語なので、理解するのに時間がかかりました。これがすべて日本語で行われていたらな～と思うことも多々ありました。差別的なことはあまり感じませんでしたが、アジア人や日本人に興味のある現地の学生はあまりいないので、友達を作るのは本当に大変でした。1 人目のアメリカ人のルームメートに私の話している英語はよくわからないと陰口を言われていたみたいで、それを知ったときはショックでした。留学期間中で一番このことがつらかったです。2 人目のアメリカ人のルームメートとは生活リズムが全く合わず、打ち解けるのに時間がかかりましたが、同じ授業を取ることが多かったのも、何かわからないことがあったら聞いてねと言ってくれたり、グループプレゼンでは一緒にやろうと声をかけてくれたり、とても親切にしてくれて、時間はかかりましたが、最終的には打ち解けることができたので良かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

たくさんありますが、1 つはアメリカの大学生は勉強熱心だなと思いました。授業はディ

スカッションでほぼ成り立っていて、多くの学生が自分の意見を自分の言葉で発言し、それを聞いた教授もその生徒の意見を否定しないという光景はすごく刺激的でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学の規模が小さく、授業も少人数なので生徒も教授も顔と名前を覚えてくれたのは本当にアットホームでいいなと思いました。また、近くにスーパーや薬局、日本食スーパーがあったので便利でした。Wi-fi もキャンパスの中ならどこでも使えるので良かったです。日本人がすごく多かったので、英語だけの環境にするのは大変でしたが、みんなで日本食を食べに行ったり、困ったときには助け合えるので良かったと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必需品ですが、なるべく薄くて持ち運びしやすいものの方がいいと思います。図書館で使うことは出来ませんが、授業のレジュメ等はインターネット上に上がることが多いし、ペーパーの提出期限前はパソコンと常に向き合っていたので、大きいと持ち運びが大変でした。日本で使っていた携帯も Wi-fi があれば使えるので、連絡をとるのに使えました。日本食や日本のお土産は役に立ちました。ルームメイトがよくお菓子をくれていたので、そのお返しに日本のお菓子を渡して、コミュニケーションのきっかけになりました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

まだ TOEIC 等を受けていないので、はっきりとはわかりませんが、単語力はすごくついたと思います。そのほかにも、現地での授業中のディスカッションに刺激され、自分の意見をしっかりと考えるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学したいと思ったら、即行動に移してください。なかなか目標スコアを獲得できず、1 回生の時は TOEFL の勉強しかしていませんでした。その時期はつらかったですが、それを乗り越えられたら素敵な 1 年間で待っていました。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだはっきりと決まっていますが、進学と就職の両方を視野に入れています。

V. 写真



韓国人のルームメイトが帰国するときの写真です。本当に本当に寂しくて号泣しました。今でも時々連絡を取っています。



よく遊んだ韓国人とアメリカ人の友達です。定期的に 3 人でアジア料理を食べに行きました。2 人とも日本に来たことがあって、日本語の授業を取っているので、日本語のテストの前は一緒に勉強していました。

S. Y. 英語英文学科・2年次

I. 留学レポート

①協定留学を目指した理由

小学生の頃、漠然と英語を話すことへの憧れを持ったのをきっかけに、英語の勉強に力を入れてきました。高校生になって英会話に通い始め、**Speaking** が全くできないことに気づきました。それから英語の勉強法がガラリと変わりました。英会話を習い始めたころは中学生レベルの会話からスタートしましたが、**Speaking** になるとそれが学校の授業よりも大変なことに驚かされました。同時に模試の偏差値が 10 上がり、英語を話せることが **Reading**、**Listening**、**Writing** に影響してくることに感動しました。それから洋画を英語字幕で楽しむなど、英語を日常生活にとり入れるようになりました。また、中学生の時にイギリスにホームステイした経験から、高校生の間は英語を自分のコミュニケーションの方法として高めることに力を入れてきました。そして実際に自分の英語がどれほど通じるのか、アメリカの文化・習慣は自分のイメージ通りなのかということに興味を持ち始め、大学生で留学することが一番いい機会だと思いました。

②留学を目指してから出願までの英語学習方法（役に立った教材など）

私の場合、協定留学のことを知ったのが秋学期の留学申し込み締め切りギリギリだったので、正直ほとんど勉強できませんでした。しかし、**Speaking** と大学受験のときに訓練した **Writing** には自信があったので、何とかテストは合格しました。**Speaking** は急にできるものではありません。簡単なテキストの CD を **Shadowing** することは **Speaking** と **Listening** 力を伸ばすいい方法だと思います。また、私は同志社女子大学が開講していた **IELTS** 講座に出席し、テスト問題の傾向を教えてもらったのが本当に良かったと思うのでお勧めします。

③留学決定から出発までの準備期間

留学が決まって私が困ったのは、一人暮らしをしていたので必要な書類などを実家から送ってもらうのに時間がかかったのと、予防接種やビザ申請手続きを 1 人で進めないといけなかったことです。私はビザを申請するときにミスをしてしまい、なかなか簡単に進められませんでした。もちろん自分でも出来ますが、心配な人や時間が迫っている人は業者に頼むのも安全な方法です。予防接種は期間をあけないと接種できないものもあるので早めに予約することをお勧めします。

④現地到着後

私は同じ大学に留学する子と 2 人で行ったので心強かったですし、空港に着いたのが夕方だったので大学の方が迎えに来てくれていました。深夜に着いて迎えがなかったなどトラブルを初日に経験したという話を他の留学生から聞いたので、飛行機便の時間を注意した

ほうがいいと思います。オリエンテーションは着いた次の日にあって、緊張しました。留学生だけのものでしたが、なかなか話しかけることできませんでした。しかし留学生同士助け合ったり遊びに出かけたりする機会が絶対増えると思うので、オリエンテーションで友達になれると緊張もほぐれていくと思います。

⑤語学研修期間語学研修先の施設・環境について

秋スタートの留学は、語学研修期間がありませんが、ELP などの留学生向けの授業をとっていました。日本以外の留学生からいい刺激をもらい、授業でただ座っているだけではなく参加するようになりました。先生方も授業後や個別で教えてくださったり、チューター制度があるので添削をお願いすることもでき英語を勉強するいい環境だったと思います。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は基本的に講義とディスカッションが主でした。他の留学生は積極的で自分から自信をもって話さないと入る余裕がないくらいでした。Speaking が苦手意識の高い人にとっては結構厳しいですが、文法を気にしすぎて発言しないよりは少しでもいいので参加することが大切です。困ったときは先生や友達が助けてくれました。宿題は同志社女子大学で出されるよりもかなり多いですが、こなせないほどではありません。テストも勉強していけば合格できるレベルに作ってあるので心配する必要はないと思います。

⑥正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

教室は 10 人から 20 人が入ることのできる大きさのものが多く、とても清潔です。寮から遠くても 10 分くらいで行けるので便利でした。建物がいくつかあり、授業ごとにバラバラで違うキャンパスの場合もあるので（非常に稀なケースです）、授業を取る前に確認するといいと思います。

◆ 履修科目

・ Nutrition

秋学期に栄養学を取りました。名前からして理系科目です。日本よりアメリカでは栄養学が進んでいることと専門的知識は必要ないといわれたので履修することに決めました。正直文系の私には難しくついていくので精一杯でしたが、興味があるものだったのでってよかったです。高校のとき生物の授業をとっていた人や理系科目でもついていく自信のある人は大丈夫だと思います。

・ Nutrition Lab

これは実験の授業です。実際に採血したり、異なる食事の後の血糖値やコレステロール値にどのような違いがあるかをディスカッションし、毎回の実験後にレポートを提出します。実験内容も難しいですがレポートの書き方を理解することから分らなかったのが、最初が一番苦労した科目でした。実験はかなり本格的でなかなか経験できないものばかりだっ

たので毎回興味深いものばかりでした。これも上記と同様、理系科目なので全く生物学を知らない方には難しいと思います。

• **East Asian Studies**

アメリカ人の学生がどのようにアジアについて学んでいるのかに興味があったので履修しました。日本人である私を先生はとても大歓迎で迎えてくださったのと、そのクラスに何人か友達がいたのでとてもアットホームな授業でした。内容は中国史が主ですが、日本、韓国、中国の関係性についても深くディスカッションしました。レポートと Reading の課題が多くて週末は潰れてしまいましたが、まったく苦にならないほど楽しい授業だったので一番お勧めします。世界史や日本史を勉強していた人にとってはすごく分かりやすいし理解を深めることができると思います。

• **Yoga and Relaxation**

体育の授業を1つ取ることを進められていたので、日本で経験できなさそうなヨガの授業を取りました。思っていたよりハードで休憩がほとんどなく、1時間以上動き続けます。私はもっと激しく体を動かすスポーツが好きだったので途中で飽きてしまいましたが、図書館にこもってずっと勉強し続けた後などにリラックスできる時間でした。

• **Scuba**

春学期に Scuba を履修しました。日本ではまず学校でできない授業だと思ったし、アメリカでもなかなか珍しい授業なので履修する現地の生徒が多かったです。しかし Scuba をするのには知識が必要で、簡単なものではないので、プールに入るためには Lecture も受けなければいけませんでした。Lecture の内容は正規の授業レベルより難しく、ついていくのに必死でしたが、達成感も味わえるのでお勧めです。先生がとてもユーモラスに富んだ方なので、優しく助けてくれます。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業は基本的には Discussion, Presentation, Paper をこなしていきます。最初全くついていけなくて、心細くなりましたが、助けてくれる友達がクラスで1人いるとだいぶ安心できます。授業終わりに先生に質問しに行くのも1つの手です。レポートは授業によりますが書き方を細かく指定されて Moodle というパソコンを使って提出するのが基本でした。多い時で2400字(10枚程度)のレポート提出があり、朝から夜までずっとパソコンに向かっている日が続いたりしますが、留学生だからといって減らしてはくれないので根気よくやるしかありません。定期試験は中間と期末テストがあり、大体3、4回テストがあつて成績がつけられます。不安な場合先生に相談したら、時間を増やしてくれる場合もあるので聞いてみるといいと思います。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

近隣には Chatham 大学の他にもたくさん大学があり、日本語サークルのようなものもあり

ました。なかなか忙しくて参加できませんでしたが、興味がある人は他校の教授とコンタクトをとることが一番いい方法だと思います。また、Chatham 大学には日本語クラスがあって日本語テーブルといった交流する場を設けてくださるので、日本語クラスの先生に連絡してみるといいと思います。ボランティア活動は友達が授業の課題のためにホームレスシェルターでご飯を給付するボランティアに参加していたので一緒に参加しました。日本ではなかなか経験できないですが、アメリカではボランティア活動が盛んなので参加してみることをおすすめします。

⑧現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

8か月ずっと寮生活でした。私はルームメイトが2人いて、1人はドイツ人でもう1人はアメリカ人でした。1人の子はとても社交的でもう1人の子は内向的なので、2人は全く合わなかったですが、特に喧嘩をすることなく過ごせました。しかしほとんどプライベートな時間はないのでストレスがたまり、日本人同士でご飯を食べたりおしゃべりをして切り替えていました。キッチン、トイレ、シャワーは基本共用ですが、大きい部屋にはトイレ、シャワーがついています。洗濯機と乾燥機は週2回予約して使えるようになっています。食事はダイニングホールでバイキング式です。私は3食食べない時もあったので、一番食事回数の少ないプランを選びました。また、大学のカフェでも Meal 交換ができるので便利です。しかしすぐに食事は飽きてしまうので中華レストランに何度も行きました。

⑨長期休暇の過ごし方

すべての長期休暇は旅行に行きました。冬休みが一番長くて3週間くらいあるので、西海岸など遠出するのをお勧めします。私は友達2人で San Francisco, LA, Las Vegas に冬休みを使って行きました。他にも New York, Washington D.C., Niagara falls に行きました。日本から友達が遊びに来てくれたので、週末を利用して会いに行きましたが、休み期間ではないと苦しいので長期休暇を利用すると思います。あと、旅行に行く前に細かく移動手段を決めておいた方が現地で困らないと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番思い出に残っているのは旅行です。Chatham 大学で仲良くなった留学生と同女の先輩とで、いろんなところに旅行に行けたことはとてもラッキーでした。すべて自分たちで調べて予約して訪ねて…と当時は大変でしたが、自信にもなったし、3人でいることがすごく心地よくて英語でコミュニケーションをとっているのに全然疲れませんでした。それと、現地のアメリカ人の友達ができただけです。一番仲良くなった子とは、家に呼んでもらって映画を観たり、ケーキを作ったり、ダンスパーティーに一緒に行ったりと、楽しい時間をたくさん過ごせました。日本文化に興味のある友達もたくさんできて、日本語で話しか

けてくれた時は本当にうれしかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

大変だったことは毎日の授業と課題です。現地のアメリカ人の学生と一緒に授業を受けることに、初めは大きな不安とストレスを感じていました。まだ話ができる友人もいない時は、授業についていける気がしませんでした。課題が多くて徹夜をする日もあり、期限までに終わらせないといけないというプレッシャーを感じることは多かったです。もう1つは食事が日本食とは全く違い、正直美味しくなかったことです。「今日はまだ食べるものがあった」と思うくらい、食事の違いで苦しみました。でも周りにアジア系のレストランがたくさんあるので、息抜きによく行っていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

基本アメリカ人は朝シャワーを浴びます。なので、共同のシャワーが夜に混むことはあまりなかったのが助かりました。一番驚いたことは、授業中にご飯を食べている学生がたくさんいたことです。特に、朝やお昼にある授業前に、カフェで飲みものとご飯を交換して持ってくるのが普通みたいです。もちろん全員ではありませんがほとんどの授業で許されていました。もう1つは、ほとんどの生徒がすれ違う人のためにドアを開けて待っていたことです。そこで”Thanks”と言葉を交わす文化は日本ではあまり見かけないなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Chatham 大学はすごい都会ではありませんが、交通の便が良くてショッピングモールやOutlet に週末行けるところにあります。大学自体は少し敷地の高いところにあって、小さな村みたいになっているのでとてもアットホームな環境です。大学の学生カードがあればバスはタダで乗れるのでとても便利でした。食品や生活用品もすぐ買いに行けるので不便なところは全くありませんし、治安もとてもよく、安全です。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

まずパソコンは絶対に必要です。現地アメリカ人の学生はみんな大学から配られたパソコンを持って授業に来ますが、留学生はもらえないので持っていく必要があります。また宿題はパソコンを使って提出するものばかりなので必要だと思います。私が持って行ってよかったものは日本の薬です。風邪を引いたとき安心して飲めるのほうがいいと思います。日本の食べ物もいいと思いますが、近くに日本のスーパーがあるのでそれほど大量に持って行かなくても大丈夫です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

一番に感じることは Listening 力が断然上がります。最初すごく早く感じていたアメリカ人

の友達の英語が聞きとれるようになっていました。それと受け答えが早くなりました。もともと **Speaking** には自信がありましたが、すぐ返答ができるようになったのが留学前との違いだと思います。英語力以外でいうと、何事にもポジティブになり、新しいことに挑戦することへの恐怖をあまり感じなくなりました。「あれだけ大変なことを乗り越えてきた」と思える自信を持てたことが一番留学して良かったことだと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私はテストに受かったし「まあ行ってみようかな」という軽い気持ちで留学をしました。現地では思っていたより課題が多くて、1 か月でホームシックになったり、高熱が出たり、新しい環境で生活することは簡単ではありませんでしたが、内面的に強く、ポジティブな自分になれたことにアメリカから日本へ帰ってくるときに気がつきました。この8 か月は人生で大きな財産だし忘れることのない素晴らしい経験になりました。迷っているなら私みたいに軽い気持ちでも飛び込んでみると、新しい世界に驚き、一回り大きくなって日本に帰ってくることができます。諦めずに協定留学という素晴らしい機会をたくさんの人に手に入れてもらいたいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来関わっていききたい職業は英語を必要としているので、留学は夢へつながる大きな一歩だと思います。留学で得られたことは英語力の向上だけではなく、素晴らしい出会いとやり遂げた自信です。1 年後就活が始まりますが、自分のやりたいことに向かって勉強し続けたいと思います。

V. 写真



ドイツ人の留学生の友達の Farewell party. いろんな国から来た留学生が集まっていて、楽しい会になりました。私は 20 歳でアメリカではお酒を飲めなかったのを覚えています。



Scuba クラスの授業風景。先生が専門用語で説明するので理解するのが大変でしたが、必死でみんなについていきました。なかなか経験できない授業なのでお勧めです！！